

製品名: トロポニン I-C ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19305**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	26kDa

抗原情報

遺伝子名	TNNI3
別名	TNNI3; TNNC1; Troponin I; cardiac muscle; Cardiac troponin I
遺伝子 ID	7137.0
SwissProt ID	P19429
免疫原	抗血清はヒト TNNI3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 11-60

背景

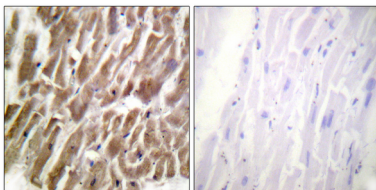
トロポニン I (TnI) は、トロポニン T (TnT) およびトロポニン C (TnC) とともに、横紋筋の細いフィラメントのトロポニン複合体を形成する3つのサブユニットの1つです。TnIは抑制サブユニットであり、アクチン-ミオシン相互作用を阻害することで横紋筋の

弛緩を調節します。TnI サブファミリーには、TnI-skeletal-fast-twitch、TnI-skeletal-slow-twitch、および TnI-cardiac の 3 つの遺伝子が含まれます。この遺伝子は TnI-cardiac タンパク質をコードし、心筋組織でのみ発現します。この遺伝子の変異は、家族性肥大型心筋症 7 型 (CMH7) および家族性拘束型心筋症 (RCM) を引き起こします。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: TNNI3 の欠陥は、拡張型心筋症 2A 型 (CMD2A) [MIM:611880]の原因です。拡張型心筋症は、心室拡張と収縮機能障害を特徴とする疾患であり、うっ血性心不全および不整脈を引き起こします。患者は早死にするリスクがあります。疾患: TNNI3 の欠陥は、家族性肥大型心筋症 7 型 (CMH7) [MIM:191044]の原因です。家族性肥大型心筋症は、通常は非対称性の心室肥大を特徴とする遺伝性心疾患で、しばしば心室中隔が侵されます。症状には、呼吸困難、失神、虚脱、動悸、胸痛などがあります。運動によって容易に誘発される。この疾患は、良性から悪性まで、家族内および家族間で多様性があり、心不全および突然死のリスクが高い。疾患: TNNI3 の欠陥は、家族性拘束型心筋症 1 型 (RCM1) [MIM:115210]の原因である。RCM1 は、心室壁厚および収縮機能は正常またはほぼ正常であるにもかかわらず、心室充満障害と拡張期容積の減少を特徴とする心筋疾患である。機能: Troponin I は、横紋筋アクチンミオシン ATPase 活性にカルシウム感受性を付与する細いフィラメント調節複合体であるトロポニンの阻害サブユニットである。類似性: Troponin I ファミリーに属する。サブユニット: アクチンおよびトロポミオシンに結合し、TRIM63 と相互作用する。

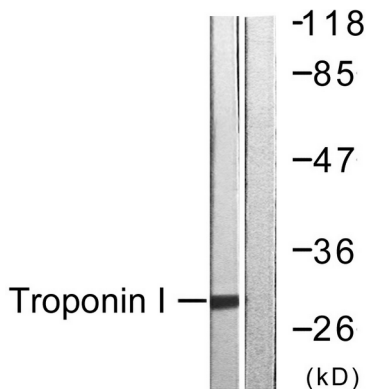
研究分野

心筋収縮;肥大型心筋症 (HCM);拡張型心筋症;

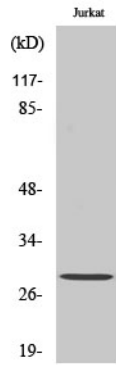
画像データ



TNNI3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



TNNI3 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



トロポニン I-C ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。